

菜の花

2023年11月1日 No. 2号

第29回全国交流集会

現地実行委員会ニュース

発行責任者：三宅敏之 編集者：矢島利一

5年ぶりの一泊開催の成功に向け全力で！

現地実行委員会事務局長 小林 精一

すでに現地実行委員会ニュース1号「菜の花」でも紹介したように、5年ぶりの一泊全国交流集会であり、2001年11月の第6回全国交流集会以来の千葉県開催でもあり、関東ブロックが一つになって全国の仲間の期待に応える1泊2日にしていこうと準備を進めています。

関東では、来年3月号までの「みんなの学習講座」を成功させ、年間方針の中間総括を持って「参加して良かった。共闘する仲間達と交流を深め学び合う事ができた」という全国交流集会にしようと頑張っています。

《現地実行委員会の構成と任務分担》

◎実行委員長 三宅敏之

◎副実行委員長 群馬県協・清水保美 茨城県協・小峯幹夫 埼玉県協・高田信雄
千葉県協・菊地義明 神奈川県協・佐久間吉美 山梨県協・城 伸一

◎事務局長 小林精一

◎事務局次長 小田切博 近藤泰夫 高原敏朗 岸 真弓

◎各班長と実行委員

※実行委員につきましては、修正・変更が生じる場合もあります。

◎機動班 班長 菊地義明 副班長 清水保美
実行委員 宮澤茂雄 豊田勲 茂木秀久 沼田雅靖 小須田重雄 高田信雄 篠塚幸一
小林勝市 土澤長重 猪野治郎 中村洋子

◎記録・編集班 班長 矢島利一 副班長 小田切 博
実行委員 宮澤茂雄（兼務） 岡本敬一（兼務） 鈴木茂久 佐久間吉美
当摩保文 坂尾正純（兼務）

◎文化班 班長 近藤泰夫 副班長 小峯幹夫
実行委員 鈴木茂久（兼務） 城 伸一

◎合唱班 班長 荒畑正子
実行委員 豊田 勲（兼務）

◎写真班 班長 坂尾正純
実行委員 岡本敬一（兼務）

◎財政班 班長 岡本敬一 副班長 宮澤茂雄



関東ブロック・各県協獲得目標

64名

☑千葉県協 参加目標 3~4名+ α 来年は千葉県成田での開催なので、千葉県からは参加しやすいので、3~4名+ α の取り組みとして、四役会議や集まりの場で「来年の全国交流集会は千葉県成田市での開催です。多くの参加を」と顔を合わせる場では呼び掛けをしています。参加者が高齢と、いろいろな組織の役員となって、日程調整が難しくなっている中、四役がそれぞれの友の会、地区協等で集まった時に、参加要請を必ずしますが、「参加しない」「参加したくない」の声もありません。また、退職、年金生活で参加費の問題もありますので、それらを含めて話し合い参加要請を続けて多くの人(全国交流集會に)行って良かったと思えるようにするのも大きな課題です。

☑埼玉県協 参加目標 30名

①年間方針に基づく後半の「年間総括報告集」を作り、全国の仲間と交流して学び班ごとに報告しながら、読者との繋がりを深める。②県協に結集する会員、読者、仲間、家族等に呼びかけ、もう一人の仲間と参加しよう。③諸活動の強化と仲間へのつながりを深め、第一学習会、地区協、班会での討論から『月刊まなぶ』を拡大しよう。

☑群馬県協 参加目標 5名

現在3友の会で会員数11名です。学習会は二つです。伊勢崎地区・境町職合同は、コロナ禍でも継続開催しています。内容は、月刊まなぶの「苦闘する職場」の読み合わせ後の討論です。コロナは中断していますが、再開に向けてオンライン会議等考えています。少ない会員ですが、県協ニュースや友の会ニュースを発行し会員全体に活動が見えるようにしています。また、読者拡大のリストアップを毎月確認し、県協の発展を目指していきます。

毎月の四役会議は、冒頭に近況報告、俳句・川柳・短歌の発表の取り組みで親交を深めていきます。

☑神奈川県協 参加目標 5名

東京ブロック全体で作成・発行された「第28回全国交流集會報告集」が届けられました。このキャッチコピーは「交流が力、つなげよう次世代に！」です。正にこの中に表題の課題に関してもヒントが満載されております。如何でしょうか？ この報告集を熟読しながら自分の事として、改めてみんなで学習と相互討論を深めて行きましょう。

とにかく前向きに、あきらめず、新しい「仲間」を求めて創意工夫をもって、励まし合って、一歩踏み込んでの努力と実行を積み上げていく事と思います。

☑茨城県協 参加目標 15名

茨城県協では毎月日曜日、月一回の運営委員会を軸に、土浦地域友の会、筑西地区まなぶ学習会、全通久慈浜学習会、内原地区労まなぶ学習会が諸活動を担っております。中々「県協ニュース」の発行とはなりません、読者・友の会会員拡大のリストアップを毎月確認し、全国交流集會の成功に向け、一人でも多くの会員・読者が参加できるようにと討論中です。

☑山梨県協 参加目標 5名

甲府の仲間中心に参加します。故丸山会長は、常に唯物史観と『資本論』に学べと言っていました。科学的社会主義に不動の確信をもち、『月刊まなぶ』を量的にも質的にも強化していきます。